

**製品名: 嗅覚受容体 10C1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15132**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | ウサギポリクローナル抗体                                       |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB,ELISA   |
| 反応性    | ヒト、ラット、マウス   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | ポリクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 1mg/ml   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。  |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000 |
| 分子量  | 34kDa                                 |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | OR10C1  |
| 別名           |   |
| 遺伝子 ID       | 442194.0  |
| SwissProt ID | Q96KK4/Q5SUN7                                   |
| 免疫原          | 抗血清はヒト OR10C1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110 |

**背景**

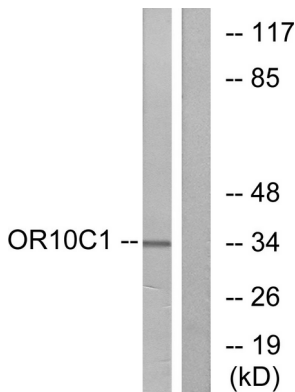
嗅覚受容体は鼻腔内の嗅覚分子と相互作用し、嗅覚の知覚を引き起こす神経反応を引き起こします。嗅覚受容体タンパク質は、単一のコーディングエクソン遺伝子から生じる G タンパク質共役受容体 (GPCR) の大規模なファミリーに属します。嗅覚受容体は、多く

の神経伝達物質受容体やホルモン受容体と7つの膜貫通ドメイン構造を共有し、嗅覚シグナルの認識とGタンパク質を介した伝達を担っています。嗅覚受容体遺伝子ファミリーはゲノム中で最大のファミリーです。この生物の嗅覚受容体遺伝子およびタンパク質に割り当てられた命名法は、他の生物とは独立しています。この嗅覚受容体遺伝子は分離型偽遺伝子であり、一部の個体は機能的な嗅覚受容体をコードする対立遺伝子を持つ一方、他の個体は機能：嗅覚受容体をコードする対立遺伝子を持つ。多型：このタンパク質をコードする遺伝子のGln-55位の終止コドンが機能的多様性に関与し、偽遺伝子が生じる。この終止コドンは、アフリカ系アメリカ人では非アフリカ系アメリカ人よりも多くみられる。類似性：Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属する。

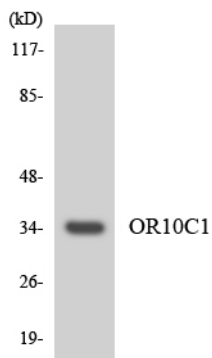
## 研究分野

嗅覚伝達

## 画像データ



OR10C1抗体を用いたLOVO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



OR10C1抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。